レッスンガイド

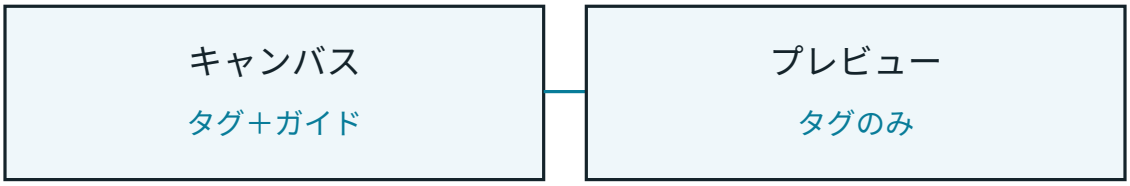
参照アートワークにツールレイヤーを使用する

参照ガイドを表示して保護しながら、レーザー加工計画から除外します。

このガイドはAIで翻訳されています。重要な手順は英語の原文と照合してください。

未接続ソフトウェア練習

機械なしを選択したまま、未接続状態にします。プロジェクトには機械プロファイルがありません。ソフトウェアのプレビューに必要な箇所では出力が有効になっていますが、例の値は素材設定ではありません。各レッスンパックは専用のフォルダーに保存してください。



ツールガイドはキャンバス上で表示およびロックしたまま、アートワークをプレビューから除外できます。

1. **reference-start.lzrproj**を開きます。Referenceは通常の線レイヤーです。大きな長方形が、タグと開口部とともに最初はプレビューに表示されます。プレビューを閉じます。

2. **Reference**を選択し、その**色の四角**をクリックします。パレット下部にある破線のスウォッチから**ツール1**を選択します。

3. レイヤーに「ツール」と表示され、レーザー設定が消えます。**表示オフ**を試してから、ガイドを表示したままにするため表示を復元します。

4. レイヤーの上部にある**レイヤーオブジェクトのロック切り替え**をクリックします。これで参照の境界が誤編集から保護されます。

5. プレビューを開いて「移動表示」を非表示にします。タグの輪郭と開口部だけが残ります。プレビューを閉じ、ガイドがキャンバス上で引き続き表示されていることを確認します。

6. 別のコピーを保存して再度開き、**reference-finished.lzrproj**と比較します。修正版リリースでは、ツールレイヤーのカスタム名**Reference**が維持されています。

自主練習

自主練習

reference-practice.lzrprojを開きます。ガイドは楕円です。Referenceだけを**ツール2**に変換し、表示したままオブジェクトをロックします。

□ アートワークレイヤー、40 x 20 mmのタグ、6 mmの開口部、楕円形ガイドの形状を維持します。

□ プレビューにはタグの輪郭と開口部だけが含まれるはずです。

□ 自分用のコピーを保存して再度開き、reference-practice-answer.lzrprojと比較します。名前Referenceが維持されていることを確認します。

ガイドを除外するのはどのコントロールですか。表示、ロック、それともツールレイヤーの種類ですか。

プレビューには何が残るべきですか。

ツールの色を通常の色に戻した場合、何を再確認すべきですか。

修正版リリースを使用する

再度開いたときにReferenceがT1またはT2に変わる場合、それは以前の命名バグです。確認済みの0.2.38版の解答では、どちらのツール選択でもReferenceが維持されます。

解説付きの解答

解説付きの解答

練習の解答
Referenceはツール2で、表示およびロックされています。70 x 46 mmの楕円はキャンバス上に残ります。アートワークには40 x 20 mmのタグと6 mmの開口部が含まれ、どちらもプレビューに含まれます。

ツールの種類とロック
ツールレイヤーの種類がガイドを出力から除外します。ロックは編集を保護するもので、出力を制御するものではありません。

通常の色に戻す
通常のパレット色に戻すと、加工レイヤーになります。確認済みの手順では、出力オンの「線」を作成しました。この変更後に設定とプレビューを確認してください。

reference-start.lzrproj
通常の「線」の参照用長方形を含むデモ用スターター。

reference-finished.lzrproj
修正版ツール1の解答、名前Referenceを維持。

reference-practice.lzrproj
楕円形ガイドを含む自主練習用スターター。

reference-practice-answer.lzrproj
修正版ツール2の解答、名前Referenceを維持。

保存後に再度開いたときの名前は、修正版Beam Bench 0.2.38リリースと一致します。以前のバージョンではツールレイヤーの名前が変更される場合があります。